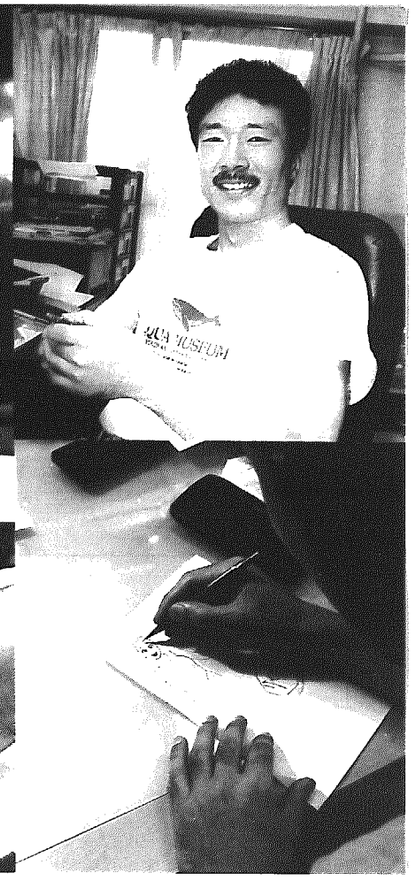
小林まこと

小林さん。横浜の仕事場で



小林まこと、斉藤富士夫の名前を知らなくても、『1・2の三四郎』や『マイケル』をあるいは『激烈バカ』を読んだことはあるでしょう。あなたが読んでいなくても、子供やお孫さんはきっと知っているにちがいありません。本屋さんに行けば、マンガの棚に並んでいます。小林さんと斉藤さん、実は黒埼が故郷なのです。ここで育ち上京してマンガの世界で活躍しています。町の教育委員会では、お二人と週刊少年マガジンの協力を得て、マンガ展を開きます。貴重な原画や資料などを多数展示しますので、ぜひ8月18日から一週間、新潟ふるさと村へご来場ください。

ヒットを続けるマガジンの四番打者

小林まことさんは昭和三十三年五月、新潟市に生まれました。六歳のとき黒埼町に転入し、山田小学校に入学。黒埼中を卒業するまで当町に在住しました。新潟商業高校を卒業後、昭和五十二年マンガ家を目指して上京し、翌年『格闘三兄弟』で少年マガジン新人賞を得てデビュー。同年十一月から『1・2の三四郎』を五十八年まで連載し人気を得ました。

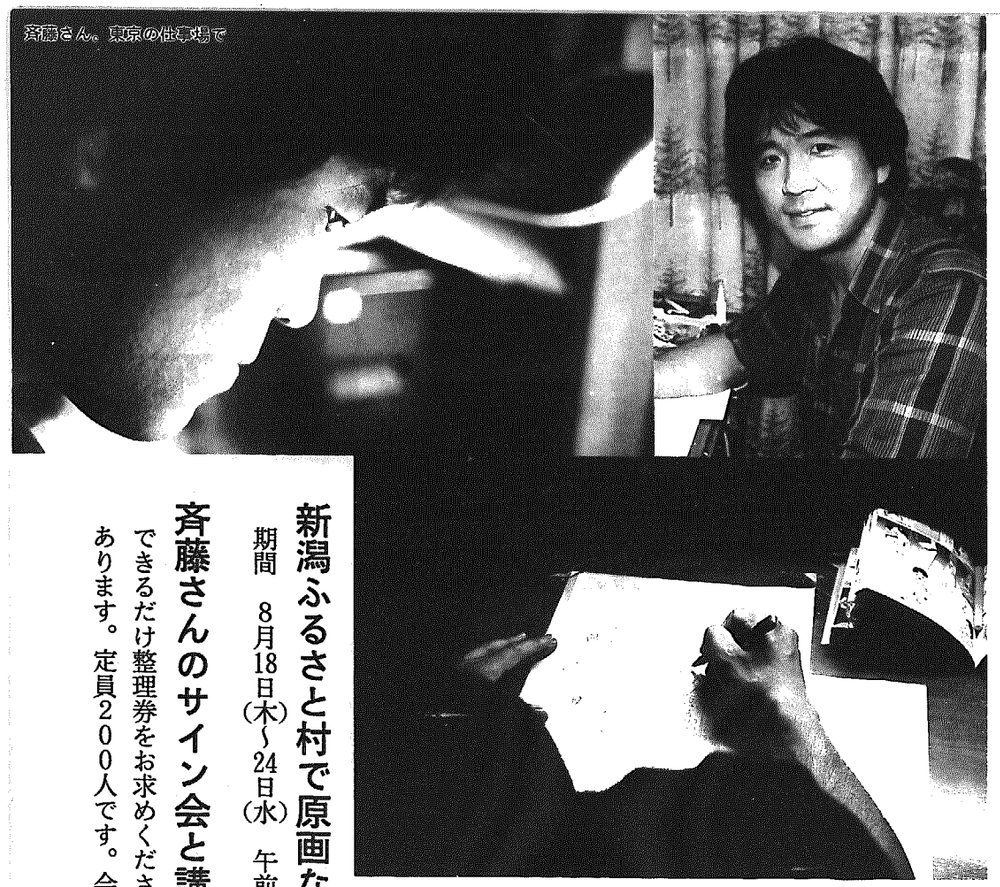
その後も次々とヒット作を飛ばし続けています。『ホワッツ・マイケル』『柔道部物語』『へば！ハローちゃん』などは、一度は読んだことがあるでしょう。現在は、『1・2の三四郎2』をヤングマガジンに『ガブリン』をミミに連載中です。

デビューして十七年。この間の平均睡眠時間は一日四、五時間といいます。小林さんは「僕のように長く続けられる人はまれです。例えていえば、プロ野球のレギュラーをずっとやっているようなものです。自分自身、驚いています」とふり返っています。売上げは一冊で数十万単位、講談社漫画賞を二度も受賞し、マガジンの四番打者ともいわれています。

小学生のときマンガ家になる決意をした小林さん。「マンガの原画展があったんです。それを見たときとても感動して参考になりました。今回の僕のマンガ展もたくさんの人に見に来てほしいですね」と話しています。超多忙の小林さん、講演会とサイン会は「行ける約束ができなくて」と残念がっていますが、ふるさと村へは、「僕も見に行きますヨ」と言っています。運がよければ小林さんに会えるかもしれませんね。

ヤングマガジン94・4・18号表紙『1・2の三四郎2』新連載

斉藤富士夫の世界


斉藤さん。東京の仕事場で

激烈生活から生まれた『激烈バカ』

斉藤富士夫さんは昭和三十六年五月、白根市下塩俵に生まれました。当時、学校区が黒埼町だったので、大野小学校、黒埼中学校で学びました。新潟江南高校を卒業後、法政大学文学部に進学し、マンガ家を目指します。在学中の昭和五十九年、『俺はドラマティック』をマガジンSPECIALに発表しデビューしました。六十二年十二月から『激烈バカ』を描き始め大好評。今年五月まで七か年の長期連載になり単行本も全十五巻、数百万部の大ヒットになりました。

今、斉藤さんは「連載して最初の一年間はつらかったですね。自分の単行本が出て、やっとマンガ家になれた」と実感しています。たしかに、斉藤さんのマンガ家への道のりは生やさしいものではありませんでした。

大学卒業後は、マンガを描くためのアルバイト生活。描いたマンガは絵柄やストーリーが受けません。一時、マンガ家志望の青年役でビートたけしの「元気が出るテレビ」に出演。ハードワークが続いて体調を崩したりしました。「でも、マンガだけは描き続けようと思って。長いストーリー物が無理なら、短い四コマのギャグマンガにして…」。それが『激烈バカ』になったのです。

マンガ展オープニングの十八日(木)、サイン会と講演会のために、斉藤さんはかけつけてくれます。マンガ家になるまでの体験談や具体的なマンガの描き方などを話してもらいます。八月末から少年マガジンで新連載が始まる斉藤さんです。久しぶりの帰郷を楽しみにしていましょう。

『激烈バカ』最終回、少年マガジン '94年5月11.18日合併号

新潟ふるさと村で原画などで展示するマンガ展を開催

期間　8月18日(木)～24日(水)　午前9時～午後6時　入場無料

斉藤さんのサイン会と講演会は18日午後1時30分から

できるだけ整理券をお求めください。教育委員会、図書館、北部公民館、体育館にあります。定員200人です。会場はふるさと村のスーパーシアターです。